

授業科目(ナンバリング)	公衆栄養学実習 (IB372) (実務的教育科目)			担当教員	川野香織 (実務経験のある教員)		
展開方法	実習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識を基に、対象集団の状況を的確に把握し、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論や方法の修得と、各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解することを目指す。							②③④⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	対象集団の健康・栄養問題の把握のために必要な調査を選択し、実践することができる。 得られたデータに適した統計処理方法の選択ができる。 対象集団の健康・栄養状況から改善策を考えることができる				課題レポート 定期試験 媒体		5% 25% 5%
情報収集、分析力	データの特徴を把握し、得られたデータを統計解析理論に基づいた処理および解析ができる。 調査結果に的確な評価および課題を抽出することができる。 地域の健康・栄養関連情報を収集し、特性の把握ができる。				課題レポート 定期試験		10% 25%
コミュニケーション力	食事調査では対象者を気遣い、的確に行うことができる。 データの取り扱いは厳守かつ丁寧に扱うことを理解できる。				授業態度・授業への参加度 課題レポート		5% 5%
協働・課題解決力	調査結果から状況を客観的に読みとることができる。 栄養改善方法を班員と協働して考え、その実践を行うことができる。				課題レポート 媒体		5% 5%
多様性理解力	調査対象者がそれぞれ多様な状況にあることを認識し、臨機応変に対応した調査ができる。 調査結果からみられた問題の要因解明について、先入観なく多岐にわたって調べていくことができる。				授業態度・授業への参加度 媒体		5% 5%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験(50%)は、調査に必要な知識や対処法などを修得し、調査結果から課題抽出、改善活動の能力を会得したことを前提に、公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した基本的な知識・技術の理解と応用について筆記試験で評価する。授業態度・授業への参加度では、実習への積極性について教員の主観的観点から評価する(10%)。課題レポートは実習課題に対するデータ処理やとりまとめ能力、調査結果やその改善対策の解説、実習の振り返りを評価するものとし、第6回、8回、15回目にポートフォリオを用いて行う(25%)。また、これらのフィードバックは授業での説明において示す。</li> <li>媒体(資料)は、食事・栄養調査の結果や2次データから抽出した課題の改善を図るものとして作成する。また、作成した媒体(資料)は、担当教員及び学生自身が内容を検討し、対象を考慮した内容の適性を評価する(15%)。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>実習形式にて、対象者の言葉や写真で示した食事に対応した摂取量を推定し、再現したものから1人分の分量や調味について検討して量的能力の養成を図る。</li> <li>食事調査を実施し、得られたデータや2次データから集団の健康・栄養問題の課題を抽出して、改善のための媒体作成を行う。</li> <li>担当教員の病院や保健所での実務経験からより実践的な技術の修得へ導く。</li> <li>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</li> </ul>							
教科書・参考書							
教科書：「公衆栄養学実習ワークブック第2版」(みらい) 参考書：食事調査マニュアル(南山堂)・日本人の食事摂取基準(2020年版)(第一出版) 指定図書：Nブックス 六訂 公衆栄養学(建帛社)、日本人の食事摂取基準(2020年版)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>特に食事調査の精度を高めるために、日ごろから食事や食生活についての興味を持ち、実習に臨むこと。</li> <li>データ集計・分析には、栄養情報処理で学んだExcel処理を主として行うため、データ処理手法を復習すること。</li> </ul>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	食事・栄養調査	公衆栄養学実習の意義・目的 食事・栄養調査の実施の重要性及び必要な技術	予習: 食事・栄養調査の実施の重要性を考える。 復習: 調理のための分量と食事摂取量把握のための摂取量の違いを理解する。
2	食事・栄養調査	食事調査の概要と特徴 食事調査1: 食事記録調査 実施に当たっての留意点 食事記録のサンプルのコード化	予習: 食事調査法の手法や特性を調べる。食品成分表の活用方法を確認する。 復習: 食事調査の流れや面接での対象者への対応について確認、理解する。
3	食事・栄養調査	食事調査2: 食物摂取頻度調査法 実施に当たっての留意点 調査の実施	予習: 食物摂取頻度調査法の手法や特性を調べ、調査後の処理について確認する。 復習: 食物摂取頻度調査法によって把握できる事項を理解する。
4	食事・栄養調査	食事調査3: 24時間思い出し法 面接による食事の聞き取り (ロールプレイング)	予習: 24時間思い出し法の手法や特性を調べ、調査後の処理について確認する。 復習: 調査での対象者への対応を確認し、理解する。
5	食事・栄養調査	24時間思い出し法による食事調査の処理	予習: 24時間思い出し法の調査後の処理について調べる。 復習: 24時間思い出し法のメリット・デメリットについて理解し、摂取量を推定することについて必要な技術を考える。
6	食事・栄養調査	食事調査のまとめ 調査員として留意点のまとめ	予習: 各種調査の特性をまとめて理解する。 復習: 調査票処理の経験を基に、調査員として必要なことが何かを考える。
7	食事・栄養調査	データの取り扱い 集計データを読み取る	予習: データ集計に必要な Excel の技術を確認する。 復習: データ読み取りの際の留意点について考える。
8	食事・栄養調査	データ解析 食事摂取基準による栄養素等摂取量の評価	予習: 食事摂取基準(2020年版)を用いた食事摂取状態の評価の方法を確認・理解する。 復習: 集団と個人の評価の違いを理解する。
9	公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント プリシード・プロシードモデルを用いた地域の現状把握と健康課題抽出	予習: 公衆栄養におけるアセスメントの意義を考える。 復習: プリシード・プロシードモデルを理解する。
10	公衆栄養マネジメント	優先すべき健康課題の特定 ターゲット層と食生活の特徴の明確化	予習: 優先課題を決定するための方法について理解する。 復習: ターゲット層を明確にする必要性について考えをまとめる。
11	公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの目標設定と計画の立案① 目標の設定方法	予習: 公衆栄養学における目標の設定方法を理解する。 復習: 長期・中期・短期目標の種類と設定の際の留意点を理解する。
12	公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの目標設定と計画の立案② 計画の立案	予習: 課題を解決するための既存の公衆栄養プログラムを確認する。 復習: 事業計画書の作成方法や必要性を理解する。
13	公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの評価 評価デザインの設定と評価方法	予習: 公衆栄養学における評価の種類を確認する。 復習: 評価デザインの種類と評価の流れを理解する。
14	公衆栄養マネジメント	事業計画書のプレゼンテーションに向けた資料作成①	予習: 事業を実施するための連携機関を調べる。 復習: 事業計画書の内容を関係機関等に提示するための資料づくりを理解する。
15	公衆栄養マネジメント	事業企画書のプレゼンテーションに向けた資料作成②	予習: 対象者に分かりやすい資料作りの工夫について考える。 復習: 公衆栄養マネジメントの一連の流れについて理解を深める。
16	定期試験		